

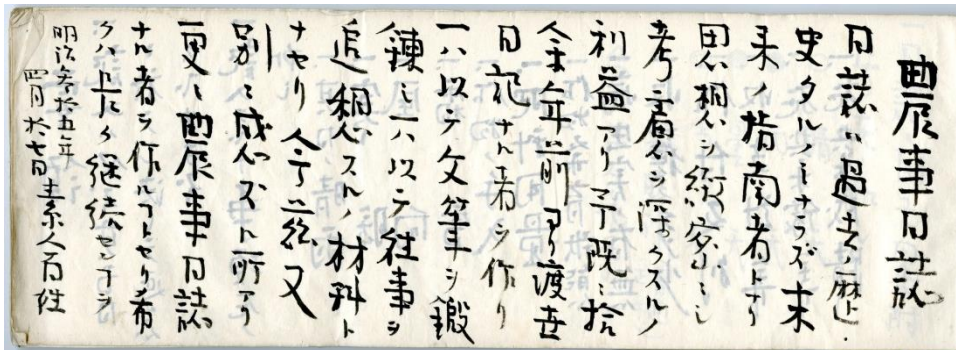
# 農事日記

## ● 日記の序言

日記の1冊目の冒頭には、「素人百姓」の名で、農事日記を始めるにあたっての決意表明が記されています。

すでに十余年前から「渡世日記」をつけ、「文筆を鍛錬し、往事を追想する材料」としてきた著者は、「日誌は過去の歴史たるのみならず、未来の指南者となり、思想を緻密にし、考慮を深くする」と日記の利益を挙げています。そして、思うところがあってさらに「農事日誌」を作ることにしたと述べ、長く継続することを願って序言を締めくくっています。

2冊目の冒頭にも同一人物と思われる「不屈屋主人」の名で序言が記されており、日記に対する著者の思いがうかがえます。

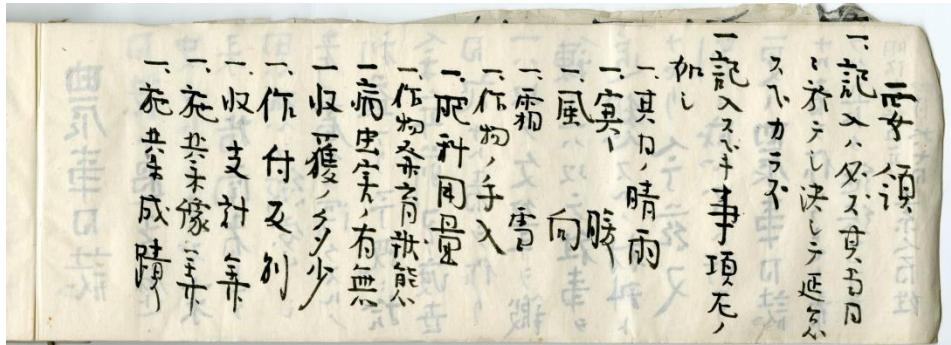
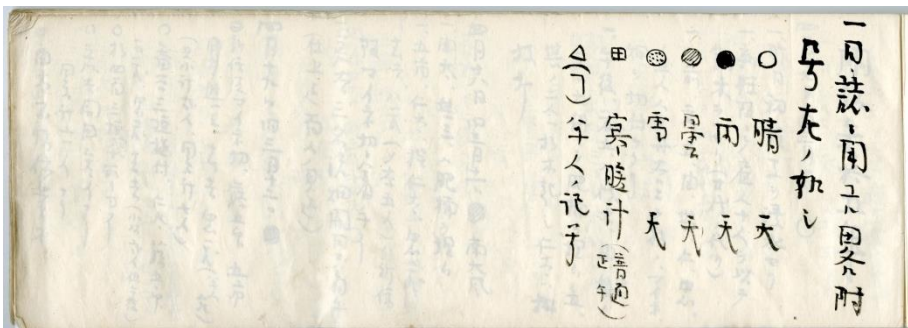


農事日誌  
 日誌ハ過去ノ歴史タルノミナラズ未  
 来ノ指南者トナリ  
 思想ヲ緻密ニシ  
 考慮ヲ深クスルノ  
 利益アリ予既ニ拾  
 余年前ヨリ渡世  
 日記ナル者ヲ作り  
 一ハ以テ文筆ヲ鍛  
 錬シ一ハ以テ往事ヲ  
 追想スルノ材料ト  
 ナセリ今茲又  
 別ニ感ズル所アリ  
 更ニ農事日誌  
 ナル者ヲ作ルコトセリ  
 クハ長ク継続センコトヲ  
 明治参拾五年  
 四月拾七日  
 素人百姓

## ● 日記の書き方

1冊目と2冊目の冒頭には、「要領」として、日記の書き方が記されています。記入は必ず当日に行うこととし、記入事項は天候や作物の手入れ、肥料の用量、病虫害の有無、収穫の多少などと細かく決められ、収支計算、施業予算、施業成績（績）なども記すとされました。

これにならい、日記は44年後の1946年（昭和21）まで書き継がれたようです。



- 要領
- 一 記入ハ必ず其当日
  - 二 於テシ決シテ延怠スベカラズ
  - 一 記入スベキ事項左ノ如シ
  - 一 其日ノ晴雨
  - 一 寒暖
  - 一 風向
  - 一 霜雪
  - 一 作物ノ手入
  - 一 肥料用量
  - 一 作物發育状態
  - 一 病虫害ノ有無
  - 一 収穫ノ多少
  - 一 作付反別
  - 一 収支計算
  - 一 施業予算
  - 一 施業成績
- 一日誌ニ用ユル略附号左ノ如シ
- 晴天
  - 雨天
  - 曇天
  - 雪天
  - △ 田 寒暖計（普通正午）
  - △ (丁) 半人ノ記号